

# 東北大学大学院歯学研究科 インターフェイス口腔健康科学 第40回学術フォーラム

*Forum for Interface Oral Health Science*

**歯科用コーンビームCT考案者、来仙！**

## 歯科用コーンビームCT活用のための留意点

**新井 嘉則 先生**

日本大学歯学部 特任教授

平成21年4月21日(火)17:00~18:30  
A1セミナー室(歯学研究科基礎棟1階)

歯科用コーンビームCT(以下CBCT)は臨床応用が開始され10年が経過し、多くのメーカーが装置を供給し、普及期を迎えようとしている。CBCTでは3次元画像を提供するため、従来の2次元的な画像診断では読影不可能な情報が得られるようになった利点は大きい。

一方、その情報量は膨大で、すべての断層画像を“読み”かつ、誤診がないようにするには、多くの時間と経験を要する。また、CBCTでは偽像の発生があること、骨の形態情報のみを提供するので神経や血管の状態を直接知ることができないことなどの限界がある。骨質の診断、予後の判断にも限界がある。これらに留意しないと大きな医療事故を発生させる場合もある。被曝の問題も忘れてはならない。

さらに、CTなどの最先端の医療に対する患者の過剰な期待も問題を大きくする可能性がある。

CBCTの限界を知り、正しい知識を普及させることが今後の大きな課題と考え、これらの留意点について講演を行う。

連絡先: 第40回モデレーター  
口腔診断学分野 古内 壽(内線 8390)